

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名				
○保護者評価実施期間	2026年 2月 4日 ～ 2026年 2月 18日			
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	31	(回答者数)	31
○従業者評価実施期間	2026年 2月 4日 ～ 2026年 2月 18日			
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	15	(回答者数)	14
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 4月 13日			

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	バス送迎がある	希望されている保護者様はご自宅周辺の公共施設に相談を行い、バス停を設定しております。ご家族に運転ができない方もおられるので、園児が安心して通園できる体制を整えています。 市町村にはよりますが、独自で急な発熱に対しても個別送迎をできる取り組みを行っています。	様々な社会資源を利用し、当施設の事や地域全体に理解が増え、ご自宅付近にバス停を設定できるようになるとさらに利用できる環境ができると 생각합니다。
2	保育の職員だけでなく、専門職との連携をすることで日々子どもたちの発達につながる支援を取り組むことができる点です。	理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、医師、看護師、心理士と子どもたちに必要な支援について話し合うことで、日々の保育で取り組めることを取り入れております。	引き続き取り組みを行い、他の専門職と子どもの発達について共有した上で各ご家庭での支援にも繋るよう努めて行きます。
3	個別支援計画の見直しを年3回行っている点です。	半年に一度の見直しでは、子どもの変化や支援の内容を十分に把握できない可能性があるため、年に3回の懇談の機会を活用して個別支援計画の見直しを行っています。その際、家庭での日頃の様子を丁寧に聞き取り、支援に反映させるよう努めています。	保護者の方とは、おたより帳でのやりとりに加え、必要に応じて面談の機会を設けられるよう努めてまいります。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	地域との交流機会が不足している点。	幼稚園、保育園、こども園との交流機会を持てておらず、地域との交流を持つためにはバス移動になることや環境の変化、多人数による集団活動が、子どもたちにとって混乱の要因となる可能性があるため、積極的な交流に至っていません。	退園した園児の移行支援を通して築いた関係を大切に、当施設から積極的に地域との関わりを持つことが重要だと考えています。 また、集団活動を行う際には、子どもたちの混乱を最小限に抑えるため、地域の園の先生方と情報を共有し、事前の配慮や調整を行うことが必要だと考えています。
2	保護者が保育の様子を見学することが難しく、日常の活動の様子を把握しづらい点。 通信やWeb、SNS等を通じた情報発信が不十分であることが背景にあります。	インターネットを利用した写真販売や各クラスで保育の様子をファイルにして来所された時に見れるようにしています。今年度よりSNSを活用して、日々の様子を発信を行っていますが、更新頻度は少ないのが現状です。	SNSの更新頻度を上げ、保護者様が日常の活動を把握できるように取り組む必要があると思います。また、知らない方にも取り組み等を知っていただくことができる機会を作る必要があると考えています。
3	父母の会や保護者会、きょうだい向けイベントなど、保護者や家庭を対象とした支援の場が十分に設けられていません。	今年度より保護者交流会を行いました。開催する日時が限られていたこともあり、参加される方は少数でした。	保護者交流会の設定する日時や内容を改めて検討を行い、きょうだいに関する内容を取り組めるような工夫が必要だと感じたので検討します。